

# 医学系研究科

## ユースメンタルヘルス向上のための県内ネットワークの構築

担当学部等 医学部

担当学科等 神経精神医学分野

担当者 福田 正人 教授

### ◎事業概要

本事業は、少子化時代のなかで将来の社会を担う中学生・高校生・大学生などの「ユース世代を対象としたメンタルヘルス向上のための県内多分野ネットワーク」の構築を目的とする。ユース世代はこれからの社会を担う世代であり、最大の健康問題はメンタルヘルスである。その向上においては、精神疾患の予防以上に精神的健康の向上が課題となる。ユース世代当事者と教育関係者と精神保健医療福祉関係者の協働が必要だが、各専門分野を乗り越えた取り組みは小規模に留まっている。そこで、ユース世代、教育関係者、精神保健医療福祉関係者、一般市民を対象とした研修会やイベントの開催を通じて、精神保健医療福祉関係者や群馬県精神保健福祉協会（申請者が会長）と連携するネットワークを構築する。これまで行ってきた、中学生向けの保健体育副読冊子「悩みは、がまんするしかないのかな？」(<http://psycience.com/>)の無料配布、利根沼田地区における医療教育連携（利根沼田こころの健康ネットワーク）、「ぐんまの若者支援研修会」(2015.2.21.)を発展させるものである。

### ◎実施事業等

「ユースメンタルヘルス研修会」「こころのふれあいバザー展」「日本統合失調症学会」の三イベントを開催した。

#### ①「ユースメンタルヘルス研修会」

日時：平成28年2月20日(土)

会場：群馬県庁昭和庁舎35会議室

「メンタルヘルス・再考—どんな要素があれば『こころが健康』といえるのか」をテーマに、若者のメンタルヘルスについて教育委員会・中学校養護教諭・臨床心理士・小児思春期精神科医・裁判官の5名が話題を提供し、参加者と意見交換した。開催には群馬県教育委員会と群馬県障害政策課精神保健室の協力を得て、教員・養護教諭・教育委員会・スクールカウンセラー・行政・精神医療関係者など約70名が参加。

#### ②「こころのふれあいバザー展」

日時：平成27年9月5日(土)

会場：群馬県庁県民ホール

群馬県内の精神障害者の発表・バザー展において、ユース世代の当事者が自らの体験をステージで発表するとともに、群馬大学の医学生であるフローオーケストラが室内楽を演奏した。イベントを通じて若者に精神的健康の増進を図ることの重要性についての理解を促す機会となった。来場者は約1,000名。

#### ③「第11回日本統合失調症学会」

日時：平成28年3月25日(金)～26日(土)

会場：ベイシア文化ホール

ユース世代に発症することが多い統合失調症においてユースのテーマを取りあげ、当事者・家族91名が参加するとともに、県内の医療福祉関係の大学で学ぶ大学生38名がボランティアとして協力し、統合失調症についての理解を深めた。学会参加者は510名。

### ◎期待される成果

本事業の成果は三点である。

第一に、「ユースメンタルヘルス研修会」「こころのふれあいバザー展」「日本統合失調症学会」という3イベントの開催を通じて、ユース世代におけるメンタルヘルスの重要性を市民などに向けて広く発信できたことである。特に、ユース世代が体験や情報をみずから発信する機会を提供することで、ユース世代の主体性を伸ばすことができた。

第二に、これらのイベントの参加者やスタッフとして、教育関係者が数多く関わり、保健医療福祉関係者と顔見知りとなるなど新たな交流ができ、これにより群馬県内でユース世代のメンタルヘルスに関わるネットワークを構築できたことである。社会的に必要性が高まっているネットワークであり、今後の発展の基礎を形作ることができた。

第三に、これらの活動に群馬大学が積極的に関わることができたことである。準備や当日の運営に、群馬大学の教職員だけでなく、医学生も関わり、しかも県内他大学の教職員や学生とも共同を進められ、ネットワークの構築とともに地域への貢献を実感できる体験となった。